

今週の紙面

心揺るがす日本講演新聞

本社 〒880-0911 宮崎県宮崎市田吉6207-3  
Mail: info@miya-chu.jp Tel: (0985) 53-2600 Fax: (0985) 53-5800

毎週月曜日(第5月曜日除く)月4回発行  
【郵便振込口座】02060-3-7621 【銀行口座】宮崎銀行赤江支店(普)1336375

お得な紙版+Web版:1,650円 紙版:1,300円 Web版:1,100円  
音声版:1,100円~(Voicyアプリ内課金の場合、価格が異なります)  
※月額税込み 消費税率10%(内税) 登録番号:T1-3500-0200-0029

【お問合せ】HP、メール、ファックス、お電話(平日9:00-16:00)にて

- 1面 矢部裕貴さん……不登校と向き合う  
社説……水谷もりひと「みんな今の自分に繋がる経験だった」  
コラム・中村信仁さん……人生繁盛~ No. 18
- 2面 矢部裕貴さん……不登校と向き合う(1面の続き)  
スポットライト……塩月育代「描き続けた絵手紙、見出した希望」~ No. 1  
読者さまの声……読者さまからのお便り~ No. 74

社説

オピニオンエッセイ

魂の編集長 水谷もりひと

あるテーマについて互いの意見や思いをグループ内で交換し合う勉強会を「ワークシヨップ」という。最近、社内では「ワークシヨップ」という。最近、社内では「ワークシヨップ」という。最近、社内では「ワークシヨップ」という。

子どもたちとうまくいかず、すっかり生き甲斐を失くしている。ある日、少年時代に過ごした田舎街を懐かしみ、その街に行ってみようと思った。飛行機に乗り、本当にその街に行ってしまう。そして、子どもの頃によく行っていた公園のベンチに座って物思いにふけっていた。

そこに旅人のような風貌の少年がやってきて、アレックスに「あなたが9人目の賢者ですか?」と話し掛けてきた。彼は意味が分からず、「何のことだい?」と聞き返した。少年は祖父から手渡された、何も書かれていない「賢者の書」を完成させる旅をしていた。9人目の賢者一人ひとりと会って、成功と幸せを手に入れるために必要な智慧を聞くのだ。聞いた印にバズルのピースを一つもらう。「賢者の書」の表紙には九つの凹みがあり、そこにピースをはめると、賢者の教えが活字になって書に刻まれる。「既に8人の賢者の話を聞いてきた」と少年は話した。

アレックスは「今の私に必要な書だ。ぜひ読ませてほしい」とお願いする。1人目の賢者の話を読み始めた。成功と幸せを手に入れるために欠かせない最初の教唆とは何だったか。それは「行動」だった。最初の一步を踏み出すのだ。そのためには「やる」と決断しなければならぬ。しかし、人はそう易々と未知なる挑戦に対して決断できない。行動した結果、成功すればいいが、失敗した時のことを考えて慎重になるのだ。しかし、1人目の賢者は言う。「今、成功と幸せを手に入れている人から話を聞いてみるといい。みんな例外なく、失敗や挫折、苦難を味わっているから」

行動した結果は「成功」と「失敗」に分かれるのではなく、両方とも今の自分に必要ない「経験」だったということだ。バズルに例えると、真つ黒なピースでも、その絵を完成させるために必要な一つであり、それがここに必要ないピースだと気付くのは絵が完成に近づくからである。冒頭に紹介した「人生すごろく」をやってみると、記憶の奥に眠っていた遠い昔の出来事に微かな光が当たり、それを言葉にすることで過去を客観的に見られるようになる。「幼少の頃に憧れていた人のことを語るの今の自分を語るのと同じ」という黒木陽子さんの言葉にハッとさせられた。そこに「優しいから」「カッコいいから」「正義感があったから」など、憧れた理由が出てくると、それが「今の自分」と繋がっているというのである。自分を振り返るとはこういうことなのかと思った。中にはつらい過去もあるので心のケアに気を配りながら進めていかなければならぬが、どんな経験も、より素晴らしい未来を築くための礎になるという考えだ。だから「金の糸」と呼んでいる。子どもの頃よくやった「すごろく」。自分が動かしていた盤の上のコマは確かに自分身だった。今も盤の上を進んでいる。

みんな今の自分に繋がる経験だった

「幼少の頃に憧れていた人のことを語るの今の自分を語るのと同じ」という黒木陽子さんの言葉にハッとさせられた。そこに「優しいから」「カッコいいから」「正義感があったから」など、憧れた理由が出てくると、それが「今の自分」と繋がっているというのである。自分を振り返るとはこういうことなのかと思った。中にはつらい過去もあるので心のケアに気を配りながら進めていかなければならぬが、どんな経験も、より素晴らしい未来を築くための礎になるという考えだ。だから「金の糸」と呼んでいる。子どもの頃よくやった「すごろく」。自分が動かしていた盤の上のコマは確かに自分身だった。今も盤の上を進んでいる。

人の小グループで語り合う。経験したことやその時の感情を思い出し、言葉にして当時の自分を振り返る。これは就職や転職など、人生の岐路に立つ若者支援の場で自己理解を深めてもらうために日本キャリア開発協会が開発したゲームなのだ。

10代の頃に経験したことには、それぞれに意味があり、それらが「今」の自分の仕事や生き方と細い糸で繋がっているという。喜多川泰さんの小説「賢者の書」(「ティスカヴァー・トゥエンティワン」)にも、そのことを思い起こさせる場面があった。主人公はアレックスという50代のサラリーマン。彼は職場でも行き詰まり、家庭でも妻や

子どもたちとうまくいかず、すっかり生き甲斐を失くしている。ある日、少年時代に過ごした田舎街を懐かしみ、その街に行ってみようと思った。飛行機に乗り、本当にその街に行ってしまう。そして、子どもの頃によく行っていた公園のベンチに座って物思いにふけっていた。そこに旅人のような風貌の少年がやってきて、アレックスに「あなたが9人目の賢者ですか?」と話し掛けてきた。彼は意味が分からず、「何のことだい?」と聞き返した。少年は祖父から手渡された、何も書かれていない「賢者の書」を完成させる旅をしていた。9人目の賢者一人ひとりと会って、成功と幸せを手に入れるために必要な智慧を聞くのだ。聞いた印にバズルのピースを一つもらう。「賢者の書」の表紙には九つの凹みがあり、そこにピースをはめると、賢者の教えが活字になって書に刻まれる。「既に8人の賢者の話を聞いてきた」と少年は話した。アレックスは「今の私に必要な書だ。ぜひ読ませてほしい」とお願いする。1人目の賢者の話を読み始めた。成功と幸せを手に入れるために欠かせない最初の教唆とは何だったか。それは「行動」だった。最初の一步を踏み出すのだ。そのためには「やる」と決断しなければならぬ。しかし、人はそう易々と未知なる挑戦に対して決断できない。行動した結果、成功すればいいが、失敗した時のことを考えて慎重になるのだ。しかし、1人目の賢者は言う。「今、成功と幸せを手に入れている人から話を聞いてみるといい。みんな例外なく、失敗や挫折、苦難を味わっているから」

子どもたちとうまくいかず、すっかり生き甲斐を失くしている。ある日、少年時代に過ごした田舎街を懐かしみ、その街に行ってみようと思った。飛行機に乗り、本当にその街に行ってしまう。そして、子どもの頃によく行っていた公園のベンチに座って物思いにふけっていた。そこに旅人のような風貌の少年がやってきて、アレックスに「あなたが9人目の賢者ですか?」と話し掛けてきた。彼は意味が分からず、「何のことだい?」と聞き返した。少年は祖父から手渡された、何も書かれていない「賢者の書」を完成させる旅をしていた。9人目の賢者一人ひとりと会って、成功と幸せを手に入れるために必要な智慧を聞くのだ。聞いた印にバズルのピースを一つもらう。「賢者の書」の表紙には九つの凹みがあり、そこにピースをはめると、賢者の教えが活字になって書に刻まれる。「既に8人の賢者の話を聞いてきた」と少年は話した。アレックスは「今の私に必要な書だ。ぜひ読ませてほしい」とお願いする。1人目の賢者の話を読み始めた。成功と幸せを手に入れるために欠かせない最初の教唆とは何だったか。それは「行動」だった。最初の一步を踏み出すのだ。そのためには「やる」と決断しなければならぬ。しかし、人はそう易々と未知なる挑戦に対して決断できない。行動した結果、成功すればいいが、失敗した時のことを考えて慎重になるのだ。しかし、1人目の賢者は言う。「今、成功と幸せを手に入れている人から話を聞いてみるといい。みんな例外なく、失敗や挫折、苦難を味わっているから」